

動物介在教育・療法学会第14回学術大会 終了のお知らせ

2021年度の動物介在教育・療法学会 第14回学術大会は10月24日の動画の配信停止をもちまして、すべて終了いたしました。今大会では対面は東京農業大学世田谷キャンパスで、リモートはZoomでのハイブリット形式で行いました。大会には全国から多くの方にご参加いただいた上に、大会へのサポートも多くの方からいただきました。あらためてこの場をお借りして、皆様のご厚意に心からの感謝を申し上げる次第です。なお、大会当日、リモート操作の不備によりお見苦しい場面が多々ございましたこと、お詫び申し上げます。

生活していくことは年齢を重ねることですので、人も動物もサステナブルな生活をめざしたいとして、今大会のテーマは「サステナブルな動物介在をめざして」としました。動物行動学者アダム・ミクロシ氏はブタベストから高齢犬の認知について、京都芸術大学学長の吉川左紀子氏は京都からユマニチュードというケアについて、それぞれご講演いただきました。ミクロシ氏の講演はビデオでしたが、質問タイムはリアルタイムでご参加いただき、お顔を拝見することができました。子どもの司法面接で活躍する付添犬の話題では弁護士、精神科医、獣医師、およびドッグトレーナーの先生方にお忙しい中 Zoomでご出演いただきました。遠隔でも時間的制限のある方でもご出演いただけるというリモートの利点が十分に発揮された大会であったと思います。

動物を人社会に活用する動物介在の領域は、日本ではまだまだ発展途上です。欧米で活発に展開されている領域ですが、日本では国内の制度や暮らし向きに合ったカタチを模索していく段階です。当学会は日本におけるこの領域の発展に少しでも寄与できることを希望し、活動を続けております。動物を介在させる領域の発展のために皆様のご支援・ご協力そしてご意見を今後とも賜りますようを心からお願い申し上げます。

2021年10月30日

大会長 土田あさみ（東京農業大学）